

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：わおわお大倉山保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：吉村 実和子	定員（利用人数）：76（69）名
所在地：〒222-0037 横浜市港北区大倉山5-7-2	
TEL：045-549-6380	ホームページ： http://www.waowao.or.jp/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2002年04月01日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人わおわお福祉会	
職員数	常勤職員：15名 非常勤職員：7名
専門職員	（専門職の名称）：名 看護師：1名
	保育士：16名 幼稚園教諭：16名
	子育て支援員：2名
施設・設備 の概要	（居室数） 居室：0歳児室 設備：調理室（本園）
	居室：1歳児室 設備：調理室（分園）
	居室：2歳児室 設備：事務室（本園）
	居室：3歳児室 設備：事務室（分園）
	居室：4歳児室 設備：乳児トイレ（沐浴室）
	居室：5歳児室 設備：幼児トイレ（シャワー室）
	設備：園庭（本園）
設備：園庭（分園）	

③理念・基本方針

<経営理念>

子どもの笑顔で世界をかえる

<運営理念>

職種、職位、職責を問わず、高い倫理観と保育指針を根底にもち、わおわおの保育理念を実現するために子ども一人一人に愛情をもって保育にあたり、日々自己啓発、研鑽をし続け、互いを高め合う人の組織を基盤とした運営でなければならない

<保育理念>

「ほめて・みとめて・はげまして」～やる気を育て、自分で考えて行動できる子どもを育てる～

<基本方針> 【わおわお大倉山保育園ビジョン】

●子どもたちの目が輝く保育

<p>〈目指す子どもの姿—夢中で遊ぶ〉 わくわく、のびのび、しなやかに強く生きる（あきらめない）、思いやり 〈そのために育みたい心と力〉 自己肯定感、主体性、非認知能力、体力・運動能力</p> <p>〈基本方針〉 【令和5年度運営方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の質を高める（子ども主体の保育） 2. 働きやすい職場を作る 3. 地域に開かれた保育所を目指す <p>〈保育目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな人間的ふれあいを通じて“人と人との信頼” 価値と尊さを身につけます 2. 子どもの社会性を培い、人間性を育むうえでの“正しい習慣” を身につけます 3. 面白いね！ 不思議だね！ すごいね！ という体験を積み重ね“創造性の芽生えとやる気” を育てます 4. “もじ・かず・ことばへの興味や関心” を育てます。 5. 人と人とのつながりを大切に“元気で明るく、笑顔であいさつできる子ども” を育てます 6. やさしい気持ちを養い、忍耐力・正義感・自制心をもつ、豊かな心を育てます 7. 命の尊さを知らせ、慈しむ心と感謝の心を育てます
--

④施設・事業所の特徴的な取組

<p>〈わおわお大倉山保育園の特徴的な取組〉（基本情報 I - 3 の記載事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●保育所保育指針を根拠とし、一人一人の子どもの主体性を育む保育 ●子ども理解を根拠にPDCAサイクルを行い、より良くを目指す保育 ●専門性だけではなく、組織性（チームワーク）を重視した保育 ●子育てステーションを目指し、保護者と連携し、地域に開かれた保育 ●研修制度やOJT制度で職員一人一人に合った育成を目指す

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年09月11日（契約日） ～ 2024年01月09日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2018年度）

⑥総評

<p>【わおわお大倉山保育園の概要】</p> <p>●わおわお大倉山保育園は、東急東横線の大倉山駅からエルム通りを歩いて7分程度のところにあります。大倉山は、整備された街並みと緑ゆたかな環境の地で、この街の象徴ともいえるギリシャ神殿風の大倉山記念館や、春には紅白20種もの梅が咲き誇る梅林があり、住民のリフレッシュゾーンとなっています。また、園舎北側には、緑深い大倉山公園があり、近くには太尾小学校、大綱中学校もあり、自然と学びに恵まれた地域です。</p> <p>●わおわお大倉山保育園は、平成14年に横浜保育室として開園し、平成16年4月に認可保育園に改組され、現在、定員76名、分園に0歳児～2歳児（定員31名）、本園に3歳児～5歳児（定員45名）に分かれて至近距離にて保育を行っています。本園はマンションの1階に開設し、分園は独立した平屋建ての建物となっています。開所時間は平日7時00分～20時30分、土曜日7時00分～18時30分です。乳幼児保育、産休明け保育、延</p>

長保育、障害児保育及び、施設開放・交流保育・育児講座・育児相談等の地域支援事業を実施しています。

◇特長や今後期待される点

1.【ほめて、みとめて、はげまして、一人ひとりの主体性を育む保育】

わおわお大倉山保育園は、保育理念に「ほめて・みとめて・はげまして」～やる気を育て、自分で考えて行動できる子どもを育てる～を掲げ、園ビジョンに「子どもたちの目が輝く保育」とし、子どもの将来において、「価値観が多様化する社会で、何を指針として生きていけばいいのかが見えにくい中、自分の考えや力で生き抜いていける人間に育ってほしい。毎日目を輝かせて夢中に遊ぶことで、生きることを意欲的に楽しみ、自分自身を好きで、友だちや周りの人のことも認められるようになり、挑戦して失敗した事を許せる温かい社会を作って行って欲しい。」と、子どもたちの未来像として明示しています。保育の実施では、9月の保育日誌において、保育士の気づきとして、「異年齢の関わりの中で年下の子に優しく教えたり声をかけたりする姿に年長児らしさを感じてさすがだなと思った。同じクラスの友だちへの声かけも優しいものが多くあり、褒めることで自信につなげていきたい」と記録されています。子どもたちの思いやりと自ら行動できる姿が窺え、園の理念と園ビジョンに沿った保育が実践されているのが分かります。

2.【6つの特徴ある活動の展開】

わおわお大倉山保育園の保育の特徴として、「知育」、「体育」、「英会話」、「食育」、「リズム遊び」が挙げられます。特に、「知育」についてはコグトレ（認知トレーニング）のプログラムをわおわお大倉山保育園のみで実施し取り組んでいます。また、パーワーワークのみではなく、毎日の散歩（戸外活動の中での自然探究や友だちとの協同遊び等）で育まれる力（＝知育）も培っています。「体育」では体育指導者検定有資格者を中心に行い、「英会話」では外部のネイティブ講師により英語の歌と遊びを通して体を動かし、英語でのコミュニケーションで興味・関心につなげています。「食育」活動では、野菜等の栽培や調理体験を行い、「食を営む力」の基礎を身に付けています。「リズム遊び」は音楽を活用して身体的、感覚的、知的に優れた子どもの育成を目指しています。これらの取組は、法人系列園で展開している特徴的な項目です。繰り返しが身に付き生かされていくことが期待されます。

3.【たのしい食育活動の推進】

わおわお大倉山保育園では、年齢に応じたねらいと内容で食育計画を作成し活動が進められています。

1歳児は「身近な人と食事をする喜びを味わう」「いろいろな友達と一緒に食べることを喜び、食べることを楽しみにする」、5歳児は「菜園活動を通して自然と食事の繋がり、命のつながりを知り、食べ物に関心を持つと共に感謝する気持ちを持つ」「食事のマナーが身に付き、自然の恵みや調理してくれる人への感謝の気持ち育つ」等のテーマに基づいて食育活動に力を入れています。園舎前に菜園を設け、今年はミニトマト、ナス、きゅうり、スイカ、さつまいも等の多くを栽培し収穫しました。今年前期の食育活動の振り返り欄には、「世話をする中で花が咲いたり実がなったりと成長過程に興味を持ち観察する姿が見られた」また、「収穫した野菜を子どもたちが調理室に持っていき、直接栄養士に調理を依頼する機会を作ったことで、感謝の気持ちを言葉にする姿もあった」と記されています。子どもたちは、栽培体験をして素材が調理されていく変化を楽しみ、自分で作った喜びを経験しています。美味しい食事と保育士の熱意・優しい保育を受け入れて、主体性を持って未来を生き抜く力を育てています。

4. 【子育てステーションの段階的前進】

法人全系列園では、「子育てステーション」を目指し、中・長期計画に組み込み進めています。地域の「子育てステーション」として、在園児保護者のみならず、全ての子育て世帯が支援を受けられる場所として、また、地域になくはならない園となることを目指し、頼れる・開かれた子育てワンストップステーションの実現に取り組んでいます。わおわお大倉山保育園の取組では、月3回施設開放を実施し、育児相談は毎週水曜日に行い、交流保育、育児講座を年4回開催しています。昨今、活動状況、保育園を取り巻く環境は厳しい状況であり、人材不足も恒常化する中、目指す意義は理解しても積極的な行動に結び付き難い現状は否めません。また、運営体制については、職員が働きやすい職場の条件として生涯設計が明確になっていること、適正な報酬、職場のコミュニケーションが円滑であることの三つが挙げられ、さらに、働き方改善の工夫を一考されると尚良いでしょう。例えば、保育WEBによる課題解決、プロジェクトチームによる活動等におけるやり方を見直す等、大きな目標に向かって、実現できる小刻みな計画を段階的に実施していかれることを期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名 わおわお大倉山保育園

《第三者評価を受審した感想・自己評価での取組の感想》

当園のためにお時間をかけていただき、ありがとうございました。

園を向上していくにはどうすればいいかを熱心にお考えいただき、大変ありがたく感じ、そのお気持ちを無駄にしないように活かしていこうと思いました。

職員がグループごとに話し合うことで、園を評価するに当たりこのような視点が必要だということを知ると共に、自分たちの保育を厳しい目で見直すことができました。また、もっとこうしていくと良いという意見も前向きに話し合う場となりました。

今後、第三者評価の視点を園内研修や職員間の話し合いに取り入れ、自分たちの不足している部分を向上させていくきっかけとしていきたいと思えます。

《評価後取組んだ事として》

1. 全体的な計画（保護者向け）を1枚に見やすくし、職員の考えを反映させていく。

2. 職員一人ひとりの意見がより反映しやすくなるよう、話し合う時間や意見を挙げるシステムを改善し、組織体制を強化する。

3. 次年度に向け、保護者に対してさらに発信や公開を行い、子どもを真ん中に連携して保育を行っていく準備をする。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり